

「すべての生徒が学びやすい環境づくり」に向けて ふりかえりシート



『クラスの中の気になる生徒』をよく観察してみると…実は「困っている」ということはありませんか。一見「やる気がない」と思われる姿の背景に「書くことに苦手さがある」「注意を向けることや持続することが苦手」「口頭の指示だけでは聞き逃しが多い」など、学びづらさがあるのかもしれません。

そのような困っている生徒にとっては「必要な支援」で、どの生徒にとっても「有効な支援」が増えることを願い、ふりかえりの観点を例示しました。気になる生徒への支援の参考にしてください。

観点		ふりかえりの項目	チェック
授業前	学習環境	集中して取り組める環境づくりを心がけている（整理整頓、気になる音や掲示物の除去 等）	
		必要な情報が分かりやすく提示されている（日課表・進路情報・テストや提出物の連絡 等）	
		視力、集中力、人間関係等 実態に応じた配慮をして座席や班を設定している	
		授業中に安心して間違えたり、分からないことを質問したりできるよう意識している	
	安心環境	つまづきのある生徒の様子や有効な支援を、教師間で情報共有している	
		いつもと様子が違う生徒や普段目立たない生徒にも意識して声をかけている	
		相談を受けていなくても、生徒が抱く困りや願いに目を向けている	
		苦手さへの対応を考えるだけでなく、本人の得意なことに着目して支援を検討している	
授業中	伝え方	話す内容を精選し、一度に伝える情報量をクラスの生徒に合わせて調整している	
		言葉で説明するだけでなく、視覚的な提示を組み合わせ、理解を促す工夫をしている	
		「丁寧に」など曖昧な言葉や「あれ」「それ」など抽象的な表現を避け、具体的に指示している	
		取り組むべきことが自分で分かるように、授業の目標や流れ、手順等が視覚的に示されている	
	枠組	持ち物や提出物等の授業中の指示を、後で確認できるようにしている	
		教師の話聞くだけの授業になっていないか、意識している	
*	例）クラスの生徒が集中して聞けるのは 分程度なので する		

チェックの仕方は自由です。取り組みの状況を例えば◎○△等でふりかえってみましょう。

*…クラスの実態に応じ有効な支援は異なります。クラスに必要な項目を入れてみましょう。

個々の生徒によっては学びづらさにつながる例

見る・・・黒板のチョークの色／電子黒板の明るさや背景と文字のコントラスト

聞く・・・声の大きさ／話す速さ／周囲のざわつき／空調やストーブの音

話す・・・自分の考えや思いを言葉にする苦手さ／人前で発表する苦手さ

書く・・・板書を写す苦手さ（時間がかかる／何をどこに書くか分からない）

読む・・・文字のフォント／漢字のルビ／文字の量

推論する・・・結果を予測したり、原因を考えたりすることの苦手さ

（文章題や初めて経験する場面での苦手さにつながる）

不注意・・・忘れ物・なくし物が多い／集中を持続する苦手さ

